

資源循環型社会の形成

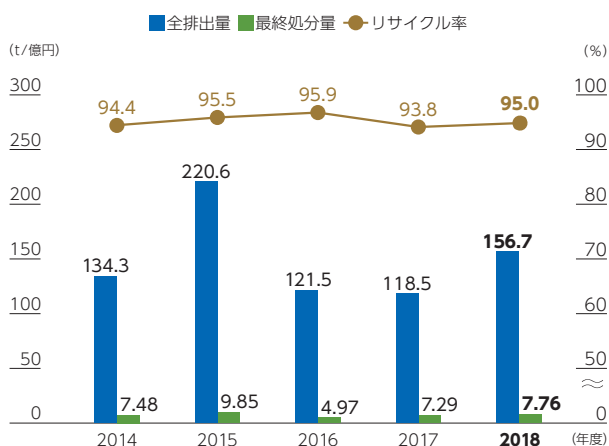
建設廃棄物排出量の推移

2018年度の廃棄物排出量は156.7 t/億円と前年度から38.2 t/億円の増加となりましたが、最終処分量は0.47 t/億円の微増となりました。

2017年度に比べ廃棄物排出量が増加したのは、建築工事における解体工事の増加によるコンクリートガラ的大幅増加のためと考えられます。

リサイクル率の目標値については、2016年度から全社目標を94%から96%に引き上げましたが、2018年度は前年度より改善したものの、残念ながら95.0%と目標を達成できませんでした。主たる要因は有害廃棄物（油タンク跡地におけるフッ素等汚染汚泥）を3,189.6 t排出したことです。処分は適正に行われています。

完成工事高1億円当たりの建設廃棄物排出量の推移

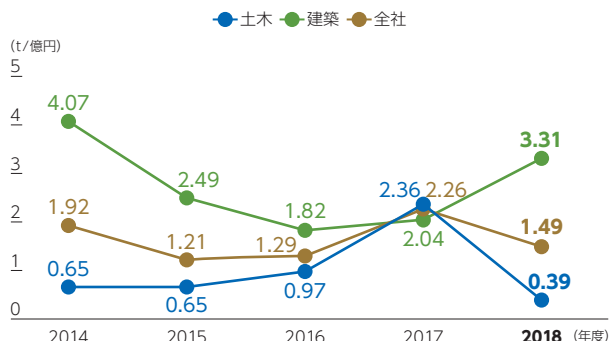


混合廃棄物排出量の推移

2018年度の混合廃棄物の完成工事高1億円当たりの排出量は、全社では1.49 t/億円、土木工事は0.39 t/億円、建築工事は3.31 t/億円となりました。

全社で2017年度に比べ0.77 t/億円の減少となりましたが、2017年度の草木混入土の大量排出を伴う特殊な工事による増加を考慮しなければ、全社的な傾向としては微増、土木工事については減少に転じたと考えています。建築工事については改装工事や解体工事等の完工高に対して廃棄物の割合が高い工事の完成が多かったことが、完成工事高当たりの混合廃棄物の割合を増加させたと考えています。よって混合廃棄物の分別等の適切な処理は、引き続き有効に実施されていると考えています。

完成工事高1億円当たりの混合廃棄物排出量の推移



リサイクル量の推移

完成工事高1億円当たりのリサイクル量は、全社で148.98 t/億円、土木工事は97.11 t/億円、建築工事は234.37 t/億円となり、前年度に比べ建築工事が大きく増加し、土木工事が微減、結果として全社もやや増加となりました。

建築工事における増加については、全国的な解体工事の増加が2017年度より顕著になり、リサイクル率の高いコンクリートガラ、アスファルトコンクリートガラの発生量がさらに増加し、それが全社の数値を押し上げたと考えています。

完成工事高1億円当たりのリサイクル量の推移

